

校長つうしん No.46

Sapporo
Odori

2018.3.15

鈴木 恵一



切ない思い 切に生きる

お坊さんから聞いた説教^{せつきょう}なのですが、瀬戸内寂聴^{せとうちやくちよう}氏(女性作家・僧侶^{そうりよ})の『切に生きる』が引用され、ああ、とても深い話だなあと思ったのでここに書き残しておきます。

生きてると、いろんな思いに駆^かられます。

「切ない」という言葉は、あなたもよく聞くでしょう。これまでに「切ない」思いをどれだけ経験したでしょう。切ないってどんな意味? どんな感覚? 辞書をひくと、こんな意味が出ていました。



- ① 寂^{さび}しさ・悲しさ・恋しさなどで胸がしめつけられるような気持ち。辛くてやるせない気持ち。
② 大切に思っている。深く心を寄^よせている。 ③ 苦しい。肉体的な苦痛。④ 切^{せつ}羽詰^{ぼつ}まった状態。
「切(せつ)」には「**身にしみて強く感じるさま**」「**心をこめて**」という意味があるそうです。



「切ない」は昔、「切なし」と表現され、元々は「大切に思うこと、強く思うこと」という意味に使われていたそうです。今も使われる「切なる願い」「切に思う」がそうです。

人は切ない気持ちになると心が苦しい。そんな思いは切り捨てたいけど、なかなか切れずに思いを引きずる切もあれば、切ってはいけない切もあるのです。

生きること、食べること、眠ることも切。人を好きになること、愛すること、学ぶことも切。うんと強い思いを「大切」と言うんですね。

この話を聞いたのは、ある方と別れなければならない葬儀そうぎの時でした。切なかったです。両親との告別こくべつも切なくて悲しかったです。切っても切れない縁えんだった親との別れ。人生にはいろんな形の別れがあって、その時々でいろんな思いが交錯こうさくします。誰しもいつかは別れる。自分が先に逝いくかもしれないですね。卒業をきっかけに友達と別れてそれぞれの道を歩むときも、ちょっと寂さびしい思いに駆られますね。



「会うは別れの始め」という諺ことわざの重みが増しました。別れがあるからこそ、人の出会いは財産になっていく。出会いに感謝し、共に過ごす時間を大切にしたいものです。

卒業生を見送った後には、新入生を迎えます。新たな出会いに感謝し、財産となる思い出をたくさんつくっていきましょう。

